

愛の花束通信  
第16号

佛立ボランティアの集い

平成15年度東日本の部として、去る6月22日、100名の方々が千葉唱題寺に集いました。

佐藤日風御導師による開講式のお看経にはじまり、午前中の前半は、お寺の近くにある、千葉市社会福祉法人の通所更生施設「いさくさべ」の施設長による基調講演でした。

「知的障害者と共に」というお話の中には、唱題寺の地域での関わりの一環が伺え、参考になることが幾つかありました。

唱題寺は、毎年2月16日実施の「蓮華祭」のバザー収益金と募金は全額、地域の施設に寄附をなさり、16年間で約545万円にものぼるとのこと……。

又、知的障害者の施設が、近隣の理解を深める為の努力として、地域清掃に出ていたり、小学校

幼稚園に声をかけ、総合学習の一つとして施設見学に来てもらったりにしている。

このような活動を、「お寺」と「地域」との関わりに置き換えて考えてみると、「お寺」が地域に溶け込み、理解をしてもらい、地域と一緒に佛立ボランティアが、これから先、出来るのではないかという気がしました。

午後の後半、基調講演(2)の「高齢者に接するヒント」では、大阪清風寺、江口淳節師によるユーモアたっぷりの車椅子を使った実技講演もありました。

**高齢者に接する上での大切な、**守ってほしい事項を3つ掲げられました。これは覚えておきたい大事なポイントだと思います。



① 守秘義務

お世話をしながら聞いた事を、他に喋ってしまつては、損害賠償に発展することもある。秘密を守ることで、お互いの信頼関係が発生する。

② 残存能力

出来ることは自分で自立してやってみよう。過干渉になると残っている機能を低下させてしまう。手を出した方が早いと思つても、見守つて、出来る事が出来なくなる原因をつくらないようにする。

③ 声かけの徹底

相手を驚かせてはいけない。本人に、今から何が始まるか声かけをし、本人につもりになつてもらおう。それはその人の力を引き出すことになり、手伝う者の負担が変わる。

車椅子の移乗実演後の江口御講師のお話は、心暖まるものがありました。

「寿命が長くなって、脳の機能

が期限切れで…?色々な事についていけないんですね。それは当然な事で良いではないですか。なーんにも出来なくなつてもお題目が唱えられたら良い!!と、本人にも家族にも、大丈夫、大丈夫!と安心させてあげて下さい。御宝前がまだ必要とされているのですよ!と言い聞かせてあげて下さい。」



午後の体験報告会では、唱題寺清雄寺、清流寺、清風寺につづき遠妙寺は、服部会長の発表がありました。当寺の2年間の取り組みについては、他寺に学ぶ所もまだありますが、着実に、一歩一歩前進しているなと感じました。